



第5号溝状土坑完掘状況 南西から

SI-2



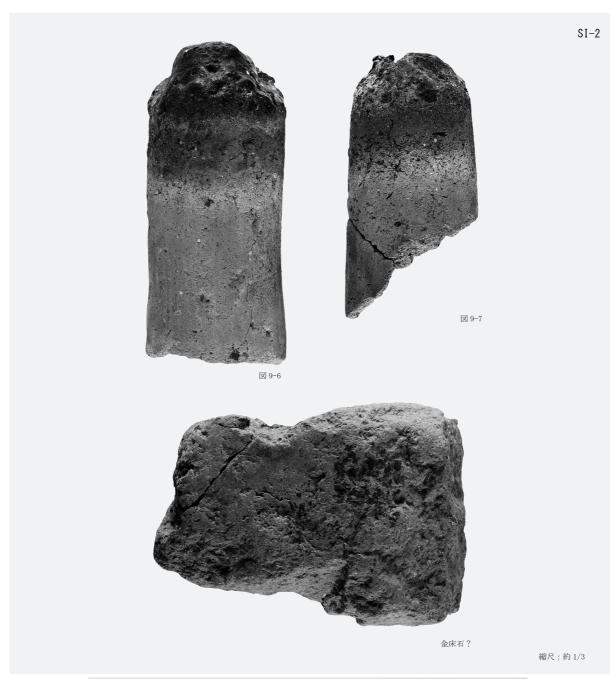






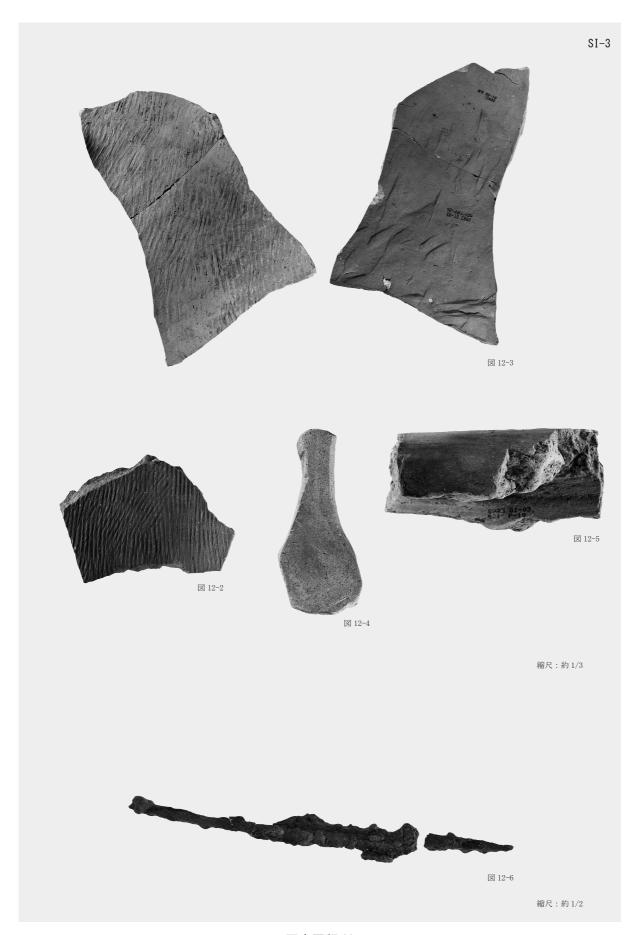


写真図版 27





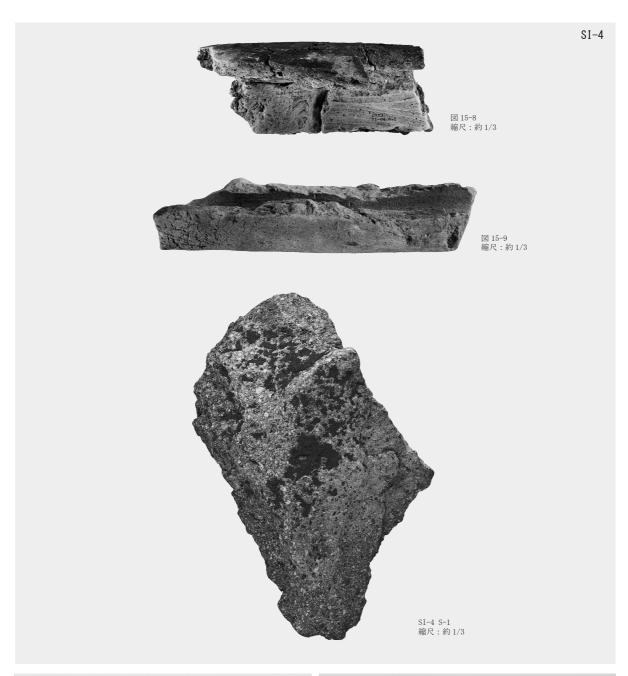
写真図版 28



写真図版 29



写真図版 30







写真図版 31



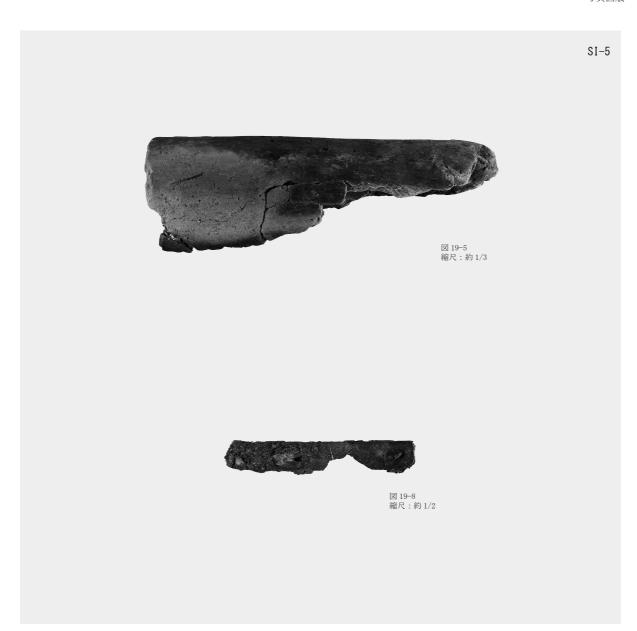




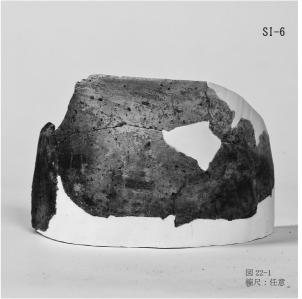




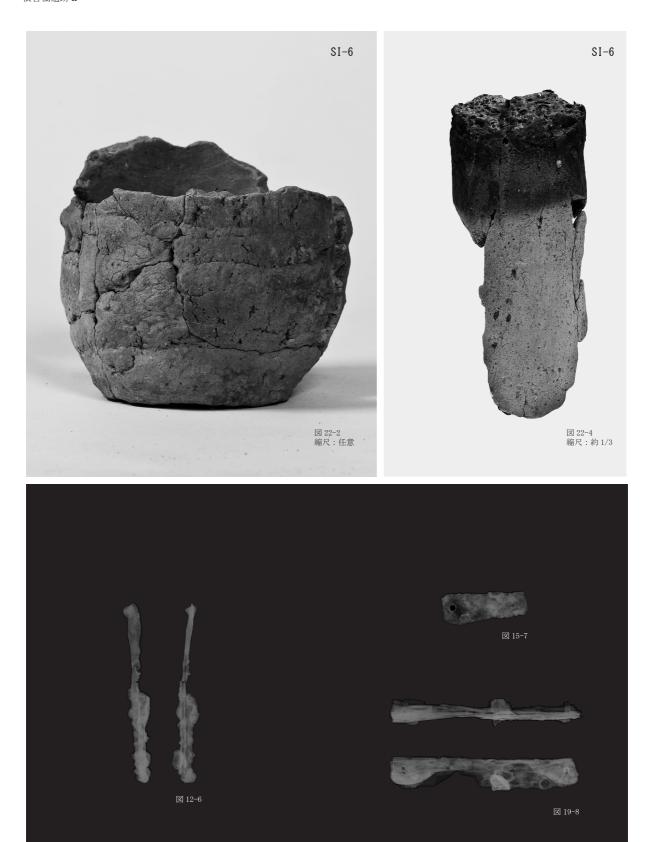
写真図版 32







写真図版 33



写真図版 34

鉄製品X線写真

報告書抄録

ふりがな	ねこはしいせきに								
書名	根古橋遺跡Ⅱ								
副書名	一般国道 45 号上北道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告								
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第 498 集								
編著者名	能代谷 征則 中村 哲也								
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター								
所在地	〒 038-0042 青森市新城字天田内 152-15 TEL 017-788-5701								
発行機関	青森県教育委員会								
発行年月日	西暦 2011 年 3 月 30 日								
が収遺跡名	がな 所在地	市町村コード	遺跡番号	日本測地系	(Tokyo Datum)	調査期間	調査面積	調査原因	
根古橋遺跡	************************************			北緯 40° 39′ 34″	東経 141° 19′ 35″			一般国道	
	外	24058	405061	世界測地系 (JGD2000)		20090427	3, 100 m²	道路建設 事業に伴	
				北緯	東経			う事前調	
				40° 39′ 44″	141° 19′ 23″			查	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	遺構主な遺物		特記事項		
根古橋遺跡	生産	縄文時代 前期後半〜晩期		溝状土坑 1基	縄文土器				
要約	集落	平安時代		竪穴住居跡 5 軒 土坑 3 基	土師器・須恵器・ 羽口・製塩土器・ 鉄製品・鉄滓・ 砥石	竪穴住居跡 5 朝 は焼失住居である		うち2軒	

要約

根古橋遺跡は、六戸町中心部から北方約6Kmの段丘上に位置する。標高は35m前後である。平成20年(2008年)に 発掘調査が実施され、縄文時代の溝状土坑4基、平安時代の竪穴住居跡1軒・土坑2基が検出されている。平成21年 度は隣接する地区を調査し、縄文時代の溝状土坑1基、平安時代の竪穴住居跡5軒・土坑3基が検出された。平安時 代の竪穴住居跡は2軒が焼失住居跡である。

出土遺物は、平安時代の土師器をはじめとして、少量の須恵器、製塩土器、羽口、鉄製品、鉄滓、砥石が出土した。 縄文時代前期後半〜晩期のいずれかの時期には陥穴が構築され、狩猟場として利用されたと考えられる。平安時代 には、小規模な集落が営まれたと考えられる。

青森県埋蔵文化財調査報告書第498集

根古橋遺跡Ⅱ

--般国道45号上北道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-

発行年月日 2011年3月30日

発 行 青森県教育委員会

〒030-0801 青森市新町二丁目3-1

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市新城字天田内152-15 TEL. 017-788-5701 FAX. 017-788-5702

印 刷 やまと印刷株式会社

〒036-8061 青森県弘前市神田4-4-5

TEL. 0172-34-4111

